1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項　目	前回（5 年 10 月判断）	今回（6 年 1 月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	⇨

（注）6 年 1 月判断は、前回 5 年 10 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっているほか、観光も緩やかに回復していることから、全体としては持ち直している。生産活動は、パルプ・紙が弱含んでいるものの、化学が緩やかに持ち直しつつあるほか、食料品が持ち直しつつあることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項　目	前回（5 年 10 月判断）	今回（6 年 1 月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	⇨
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	⇨
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	⇨
設備投資	5 年度は前年度を上回る見込み	5 年度は前年度を上回る見込み	⇨
企業収益	5 年度は減益見込み	5 年度は減益見込み	⇨
企業の景況感	現状判断は「上昇」超	現状判断は「上昇」超	⇨
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
公共事業	前年度を下回っている	前年度を上回っている	↗

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直しが続くことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■　個人消費　「持ち直している」

スーパーは、衣料品等が弱い動きとなっているものの、飲食料品が堅調であることから、全体としては堅調となっている。コンビニエンスストアは、飲料品や米飯類等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ドラッグストアは、販売促進効果などから飲食料品に動きがみられるほか、化粧品が持ち直していることから、全体としては好調となっている。家電大型専門店は、一部の高付加価値製品に動きがみられるものの、消費行動の多様化などから、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、暖房用品等の動きが弱いものの、行楽用品等に動きがみられることから、全体としては底堅いものとなっている。百貨店は、衣料品等の動きが弱いものの、高額品等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。乗用車の新車登録・届出台数は、小型車は前年を下回っているものの、普通車及び軽乗用車は前年を上回っており、全体としても前年を上回っている。観光は、外国人観光客の増加により、緩やかに回復している。国内旅行は、回復しつつあり、海外旅行は、緩やかに持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- ➢　残暑や暖冬の影響により、秋冬衣料品や暖房用品の売れ行きが悪い。（スーパー）
- ➢　コロナ５類移行に伴う外出需要が継続しており、キャリーバッグ、化粧品などの売れ行きがよい。（スーパー）
- ➢　気温が高く推移したため、白ネギや大根、鍋スープなどの鍋物商材の売れ行きが悪い一方、飲料やアイスクリームは販売好調であった。（スーパー）
- ➢　中食需要の定着や野菜の相場高などから、総菜の売上が好調。（スーパー）
- ➢　コロナ５類移行による人流回復で、引き続きペットボトル飲料やおにぎりの売れ行きがよい。（コンビニエンスストア）
- ➢　気温が去年よりも高かったため、伸びるべき商材（温かい麺類）が伸長しなかったが、飲料やアイスクリームは販売好調であった。（コンビニエンスストア）
- ➢　売場面積拡大や商品数増加などの取組みにより、冷凍食品をはじめとした食品全般の売れ行きがよい。（ドラッグストア）
- ➢　外出機会やマスクを外す機会が増加したことで、化粧品全体の売上が回復している。（ドラッグストア）
- ➢　暖冬のためエアコンの売れ行きが良くなかった。（家電大型専門店）
- ➢　高付加価値・高機能製品へのニーズは引き続き高いものの、物価高による買い控えや、外出需要の高まりから消費者の意識がレジャー消費へ向いており、耐久消費財の需要が落ちている。（家電大型専門店）
- ➢　残暑、暖冬の影響で暖房用品等が不調。（ホームセンター）
- ➢　気温が高かったことで、クーラーボックスなどを中心に行楽用品が好調。人が集まるイベントが復活したため、屋外家具も好調。（ホームセンター）
- ➢　暖冬の影響で冬物衣料の動き出しが鈍かったものの、外出機会の増加から化粧品販売が好調であるほか、ブランドバッグや高級時計についても引き続き好調。（百貨店）
- ➢　半導体不足や部品調達難が回復に向かっており、生産が正常化しつつあることで、登録台数は増加している。（乗用車）
- ➢　新型コロナウイルス感染症の５類移行による観光需要の高まりや、円安による外国人観光客の急増などがあり、好調である。（観光）
- ➢　国内旅行取扱高は、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行による旅行需要の回復から、前年を上回った状態が続いている。（旅行）
- ➢　回復途上ではあるが、海外旅行の需要は戻ってきている。（旅行）

■　生産活動　「一進一退の状況にある」

化学は、医薬品に動きがみられることから、緩やかに持ち直しつつある。食料品は、堅調な需要を背景に、持ち直しつつある。パルプ・紙は、印刷用紙等に弱さがみられることから、弱含んでいる。こうしたことから、全体としては一進一退の状況にある。

- ➢　医薬品は国内需要、海外需要ともに順調であり、生産量は増加している。（化学）
- ➢　冷凍食品は手軽さなどから人気が高く、受注状況は引き続き好調。（食料品）
- ➢　ペーパーレス化や値上げによる買い控えにより、需要が低下している 。（パルプ・紙）

■　雇用情勢　「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は横ばいとなっている。新規求人数は前年を下回っている。法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI をみると、12 月末は全産業で 33.4%ポイントと「不足気味」超となっている。

- ➢　物価高に伴うコスト増加により、人件費を抑えるために求人提出を控える動きが一部の業種でみられるが、新規求人数の減少は、前年の反動などによるものも多く、様々な業種で人手不足感が続いている。（労働局）
- ➢　物価高による生活防衛のため、パートや年配の方を中心により良い条件を求めて求職する動きが続いている。（労働局）
- ➢　旅行者数増加により、窓口対応をする人材が不足している。採用活動の強化や人員の配置の工夫で対応している。（生活関連サービス業）
- ➢　ベースアップは行っているものの、都会に出る若者が多いこともあり思うように採用活動が進んでいない。（その他の輸送用機械器具製造業）

■　設備投資　「5 年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5 年 10～12 月期

○　製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■　企業収益　「5 年度は減益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5 年 10～12 月期

○　製造業及び非製造業で減益見込みとなっており、全体としても減益見込みとなっている。

■　住宅建設　「前年を上回っている」

○　新設住宅着工戸数でみると、持家は前年を下回っているものの、貸家及び分譲は前年を上回っており、全体としても前年を上回っている。

- ➢　資材価格上昇による住宅価格の値上がりなどによって、住宅購入のマインドが低下している。（建設業）

■　公共事業　「前年度を上回っている」

○　前払金保証請負金額でみると、国は前年度を下回っているものの、市町村は前年度並みとなっており、独立行政法人等及び県は前年度を上回っていることから、全体としても前年度を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回（5 年 10 月判断）	今回（6 年 1 月判断）	前回比較	総括判断の要点
香川県	持ち直している	持ち直している	⇨	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
徳島県	持ち直している	持ち直している	⇨	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。
愛媛県	持ち直している	持ち直している	⇨	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。
高知県	持ち直している	持ち直している	⇨	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。